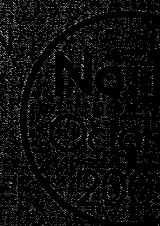




TOKYO GARIOA FULBRIGHT ALUMNI ASSOCIATION

ガリオア・フルブライト東京同窓会

NEWSLETTER



2001年度 東京同窓会総会・懇親会

～新時代の国際文化交流～



ガリオア・フルブライト東京同窓会
〒102-0084 東京都千代田区二番町11-10
TEL: 03-3221-1841 FAX: 03-3238-0758



ガリオア・フルブライト東京同窓会2001年度総会及び懇親会は、さる4月13日(金)、東京有楽町の東京會館で開催されました。

今年の総会には63名の会員、家族が出席。また当日は、日米教育委員会関係者等7名が列席されました。引き続き行われた講演会、懇親会ともになかなかの盛況で、年次、留学先を越えてダイナミックに交流を深めた同窓の集いでした。

総会では、小中陽太郎Alumni Meetings委員長が開会を宣し、議事に入りました。

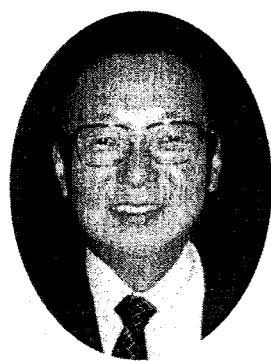
皮切りに太田隆次事務局長より、会務報告が行われ、さらに、原田敬美監査役より、添付監査報告書の通り監査報告が行われました。また金子会長より4月13日付で、太田隆次事務局長の後任に正野敏夫氏を任命することが報告されました。

総会の後、日比谷潤子氏(慶応義塾大学助教授)(U. of Pennsylvania Linguistics, Theory 1983)(Alumni Meetings委員会副委員長)による「私の英語教育論」と題する講演があり、その後参加者から英語教育についての熱心な質問等もあり会場が熱気につつまれ、楽しく自由なディスカッションがくりひろげられました。

会長挨拶

金子尚志 KANEKO, Hisashi

1960年 U. of California Berkley Communications Engineering



昨年4月21日の総会に於いて、橋本前会長の後任としてガリオア・フルブライト東京同窓会会長を勤めるNECの金子尚志でございます。'60年California大学Berkeley留学のフルブライターでございます。本日は大勢の同窓会メンバー各位

にお集まり頂き誠に有り難うございます。

後程、太田事務局長から会務報告がなされますが、私からこの1年間の経緯をかいつまんでご報告申し上げます。

本年も、何回かフルブライト留学生の歓送迎会が行われましたが、来日フルブライターの為の成田出迎え、最高裁判所見学会や、宇都宮ツアー等、同窓会会員各位にご尽力いただきましたことを厚

く御礼申し上げます。10月16日には恒例の日米交流チャリティー・ゴルフ大会が、牛尾治朗・Bob Grondine両co-chairの下で159名の参加者を得て開催され、約500万円の収益金が財団に寄贈されました。

もう一つ私からご報告しなければいけないことは、50周年の記念個人募金であります。来年はフルブライト制度発足から50周年に当たる為、現在50周年記念事業実行委員会(賀来委員長)が発足し、既に3回の講演会を開催し来年には記念式典(5/25、26)を計画しております。さらに、来年は全国同窓会による5年毎の個人募金の年に当たります。先般の同窓会役員会で論議され、先刻開催された全国理事会でご了承いただき、「フルブライト50周年記念募金」を記念式典に間に合わせて挙行することになりました。(従って、今回は式典があるため、前回より実質的に1年前倒しになっていることをご理解賜りたいと思います。)

尚、折しもサンフランシスコ平和条約締結50周年記念事業の一環として、A50事業実行委員会(大河原良雄会長)により募金活動が進行中であり、この内奨学金引当額は財団法人日米教育交流振興財団に寄託され、「A50フルブライト奨学金」として、米国からの留学生招聘に寄与する事になっております。米国の友情に感謝することではA50事業とは同じ志を共有するものであり、本個人募金もA50事業との協調関係に於いて取り進められますことを御承知置き頂きたいと思ひます。

ホスピタリティ委員会の活動報告

1. 宇都宮旅行

島田道子 SHIMADA, Michiko

1957 U. of Minnesota American History (Hospitality委員会 副委員長)

宇都宮旅行も今回で12回目を迎える。今年は家族連れが多く、幼稚園児から成人の子供6名を含む総勢18名であった。

昼近く宇都宮に集まり、例年の如く「いっくら」の会員に迎えてもらい、会席料理の昼食会が行われた。日本料理紹介もあって会席料理であるが、値段や菜食者の不満など過去にあったため、今回は同窓会もちになった。そのせいかわから



ないが大好評だった。

午後は裏千家茶道教授の斎藤宗琢氏のお宅に伺い、本格的茶室や茶庭をみながらお茶をいただいた。その後2階の広間で夫人の日本舞踊をみせていただいたあとは自由におしゃべりを楽しんでもらった。

2日目はチャーターバスで日光へ行った。自然博物館での映画「悠久の日光」は、いながらにして日光の四季をみることができ、大変好評であった。

昼食後、大猷院、東照宮を見学、大猷院では、



50年毎にしか公開されない家光の墓がある奥の院にも行くことができた。

3日目は益子へ行き、江戸時代から続く監染の工房を見学し、焼き物工房や立派な日本屋敷をもつ関沢陶芸の日本庭園やお座敷を見学させてもらった。

フルブライターは「いっくら」の会員の家に2晩ホームステイをしたが、ホストファミリーの暖かいおもてなしに、全員大満足していた。

最後の日は、その夜同窓会主催の歓迎パーティーがあるので、午後は帰京の時間にまわさざるを得



なかった。せっかく益子に来たのだから、もっと買い物をゆっくりやりたかったという声が多かったので、来年はこの点を考慮しなくてはいけないと思った。

1日目は雨だったが、あとの2日は晴天に恵まれ、フルブライター一同とても楽しかった、素晴らしい思い出になったというコメントをもらい、お手伝いした者として、とてもうれしかった。

2. 出迎えサービス

太田 隆次 OTA, Ryuji

1967 U. of Wisconsin Labor & Industrial Relations (ホスピタリティ委員会委員長)

1989年からの成田空港での「出迎えサービス」は、2001年7月31日現在で述べ130名のアメリカングランティーを出迎えました。家族同伴の方も多いため実際はもっと多くなります。成田空港は東京から遠いこともあって、出迎えは成田市在住の方々を中心に、千葉県下に在住の東京フルブライト同窓生と家族のボランティア活動によるものです。

出迎える時は、航空機が到着して15分位してから、GARIOA FULBRIGHTのロゴマークの入った出迎え専用のプラカード(大日本インキ化学工業株式会社で1989年に作成、ご寄付して頂きました)に、到着するアメリカングランティーの名前を書いて、手に持って掲げます。JUSECから予め写真を頂いているのですぐ分かりますが、大抵の場合、プラカードが目立つのか先方が先に見つけて喜喜満面走り寄ってきます。出迎える側がほっとする瞬間ですが、出迎えられる側がもっと、ほっとする瞬間でしょう。

誰しも、初めて訪れる国の空港での不安は、重